jyukyo dayori
# 住居だより
ひと と 空間 を科学する

日本女子大学 住居学科のニュースをご紹介します。

No.029
Dec.2018

topic 1

## 2017 年度 卒業論文・卒業制作、修士論文・修士制作が多くの賞を受賞しました！

name
2017 年度 卒業制作　建築デザイン専攻 篠原研究室
平井 未央さん

title
縁の下のまち —基礎から導く私有公用—

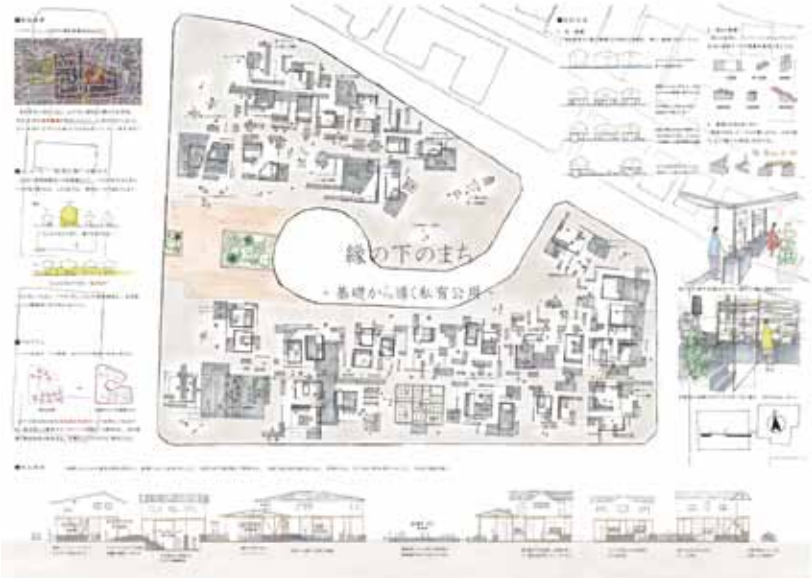
Concept
福井豪雨で浸水被害を受け、多くの空地が取り残された住宅地。1 階の壁を剥がし、腐敗した構造を鉄骨フレームで補強すると共に、接地階は公共へと開放する。そうすることで、「みんなのものであり、私のものであり、誰かのもの」という私有公用空間が実現する。開放した接地階は、宿泊施設兼周辺住民達のシェア施設として計画する。私有空間に生まれた宿泊施設は、住民達の手によって手入れされていき、住民はお金を得ることもできる。
開放したことで、むき出しとなった基礎は、設えのように変化しつつ連なり、構造としての役割だけでなく、設備や生活の基礎としても働く。新しく設置された基礎はまちの基盤として浮き上がってくる。基礎はまるで遺跡のように、見た人それぞれに使い方を想起させる装置となり、使う人によって違う風景が生まれる。

全国合同卒業設計展「卒、18」
**最優秀賞**

第 16 回林雅子賞
**田邊曜選定委員特別賞**

せんだいデザインリーグ 2018
卒業設計日本一決定戦
**特別賞**

第 41 回レモン展
**長谷川豪賞**




name
2017 年度 修士論文　日本女子大学大学院　定行研究室
一色 紗綾さん

title
高齢期の居住選択のための評価指標の策定
—ICF を応用して—

Concept
高齢者が最期を迎える場所には、病院が圧倒的に多い一方で、個々に居住場所の希望を持っていると推察する。しかし、実際には、高齢者の居住状態と将来に対する希望が不明確な状況であり、高齢者やその家族が居住選択を行うことは容易ではないと考えられる。
そこで本研究では、居住状態の把握と希望を叶えるための検討から居住選択の一助とすることを目的とした。これより、高齢期の居住選択のための評価指標の策定として、ICF の考え方を応用したヒアリングシートを作成した。作成したヒアリングシートを用いた調査より、高齢者への居住に関する現状及び将来の希望のヒアリングの分析に ICF の考え方が有効であること、経時的に複数回の調査によってデータの蓄積が可能であることが分かった。」

2018 年度　日本建築学会
**優秀修士論文賞**

第 3 回　都市住宅学会
学生論文コンテスト修論部門
**最優秀賞**

第16回　林雅子賞
## 林雅子賞

せんだいデザインリーグ 2018
卒業設計日本一決定戦
12位

name

2017年度 卒業制作　建築デザイン専攻 宮研究室

### 殿前 莉世さん

title

### 堆積の器 —身体や時間のものさしとなる建築—

Concept

建築にはものさしがつきものである。物質そのものの大きさを測る尺度はもちろんのこと、大地に根付く時間から、身体のものさし、ときにはものの見方を変えてしまう価値観の尺度すら操作してしまう。設計とはさまざまなものさしをもって、大地に建築する行為である。建築のもつ地続きのスケールを行き来するような、そしてそれが誰かの尺度をささやかにかえることが出来ないだろうか。東京湾に浮かぶ小さななぎさに、大きなすりばち状のくぼみを作る。その建築は地球に対しては海水の動きをわずかに変える穴のように、人間が足を踏み入れれば居場所をそれとなく規定する広場のような場所に、小さな生き物たちにとっては一生を過ごす住みかのようになる。足元をちょっとだけ気にするような、そんな段差の集合は実は都市の体験の中にも反復されていて、訪れた人はいつかこの建築をふと思い出すのかもしれない。人間、小さな生き物から無生物に至るまで他者の存在を長い時間かけて受け入れる大地の改修である。

第16回　林雅子賞
## 田根剛選定委員長特別賞

name

2017年度 卒業制作　居住デザイン専攻 宮研究室

### 津田 加奈子さん

title

### まちにほどける混在郷
—インフラ化する庁舎建築—

Concept

更新期を迎える庁舎は、電子化の普及により訪れる機会が減る一方、無縁仏の管理などつながりの弱くなった共同体の問題と関わっている。今後単純化していく庁舎建築に冠婚葬祭のプログラムを取り込み、様々な人生の節目におかれた人々が行き交う豊かな公共をつくる。敷地である北区王子駅周辺を立体的に交差する約800mの曲線状の空間でつなぎ直していく。動線の交錯により思わぬ喜び場に居合わせ、柔らかい断絶によりいずれ訪れる死を無意識に受け止める。生と死が混在郷の中で共存し、人々のよりどころとなるふくらんだ道のような庁舎の提案。

第16回　林雅子賞
## 吉村靖孝選定委員長特別賞

name

2017年度 修士制作　日本女子大学大学院 篠原研究室

### 高藤 万葉さん

title

### しきりによるまちのリノベーション
—建具・障屏具による境界の再構築—

Concept

日本の建築は、目的に応じて障屏具や建具により空間が仕切られていた。明治以降の近代化に伴い、障屏具や建具などのしきりは壁へと変化した。使われなくなったしきりの良さを再認識し、新しい可能性について提案する。敷地は江東区木場。木場は木材のまちとして栄え、水運や木遣りなど水辺空間と共生して暮らしていたが、現在は閉じた壁が点在する殺風景なまちへと変化した。閉じた壁を利用し、建具や障屏具による境界の再構築を行う。閉じた壁面にしきりのレイヤーを増設することで、相互の関係がゆるやかにつながる。しきりは、外部環境や内部の機能、使い方、季節に応じて変化する。しきりのレイヤーにより、木場に新たなまちなみが生まれる。

第53回　東京公園協会賞
## 最優秀賞（論文部門）

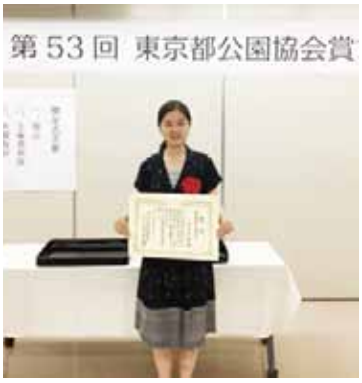
name

2017年度 卒業論文　建築デザイン専攻 是澤研究室

### 松橋 萌香さん

title

### 明治神宮造営計画にみる建築・造園分野の相関
—内苑と境外参道を中心として—




Concept

明治神宮の建築と造園分野の関連性を明らかにした。まず、建築の専門家にたいして造園の専門家の関与が、造園計画決定前後で異なることを指摘した。さらに、社殿・境内・境外参道といった造営計画における建築と造園分野の相関を探った結果、以下の知見が得えられた。一つは、社殿様式選択の際、常緑広葉樹の林苑にふさわしい社殿が選ばれたことである。これより、流造という社殿の形の選択において植生計画が関連していたことがわかる。次に境内参道の向きについて建築と造園分野では異なる社殿の見え方を配慮した論争があったこと、御苑を含む既存地形を配慮した計画の実態について地形の変遷図をもとに指摘した。建築分野から造園分野への配慮に比べると、造園分野から建築分野への配慮は少なかったと考えられる。

日本女子大学 JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY　住居学科　居住環境デザイン専攻　建築デザイン専攻
〒112-8681　東京都文京区目白台 2-8-1　TEL：03-5981-3452（住居学科中央研究室）
URL：http://mcm-www.jwu.ac.jp/~jyu-ishi/jyu/ui/course0104a.htm

バックナンバーをご希望の方はオープンキャンパスでお声掛けいただくか、左記の住居学科中央研究室にお問合せください。HPでも公開しています。